

# Bauduin Collection

Photograph Collection of Japan in Bakumatsu-Meiji Period

ボードイン・コレクションとは、幕末・明治に西洋医学の指導者として来日したオランダ人のアントニウス・ボードインが、オランダ領事であったその弟アルベルト・ボードインと協力し、日本滞在中に撮影および収集した古写真アルバムです。  
(長崎大学附属図書館所蔵)

ネット上でも閲覧できます。  
日本古写真アルバムボードイン・コレクション  
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/bauduin/>

## 幕末・明治を知る西洋の男たち

1

経済学部教授  
柴多 一雄  
Shibata Kazuo

## 礼装のボードイン博士

長崎大学附属図書館は一昨年、長崎大学医学部の前身である養生所(のちに精得館と改称)の第二代教頭であったアントニウス・ボードインとその弟アルベルト・ボードインが撮影、収集した世界有数の日本古写真コレクション、ボードイン・コレクションをこ子孫から譲り受けた。

ボードイン兄弟の兄アントニウス・ボードインは、一八二〇年にオランダのドルトレヒトで生まれた。ユトレヒト陸軍軍医学校とグロニンゲン大学で医学を学び、卒業後はユトレヒト陸軍軍医学校で教官を勤めた。このときボードインは指導教授であったドンデルストともに生理学教科書を著したが、養生所の初代教頭ボンベはこの教え子で、その教科書を養生所の講義に用いていた。文久二年(一八六二)秋、ボンベの後任として来日したボードインは、日本人学生にオランダ医学を教えるとともに治療にも従事した。眼科学に造詣が深かったボードインは養生所内に新しく眼科手術室を設け、物理学、化学などの基礎科学を充実させるため分析窮理所を建設した。また写真にも興味を持ち、みずからス

タジオを作つて訪問した人々を撮影したり、長崎内外の風景を撮影したほか、ベアトや上野彦馬といった職業写真家の撮影した写真を収集した。

長崎での五年の任期を終えたボードインは、教え子の緒方惟準(緒方洪庵の次男)らを伴つてオランダに帰国したが、ボードインの提言によつて幕府が本格的な医学校の建設計画を進めていたため慶応四年(一八六八)再び来日した。

しかし、幕府が崩壊して医学校建設計画が頓挫したため、教え子の緒方惟準を院長として設立された大阪の仮病院(現大阪大学医学部)に医師兼教頭として勤務することになり、刺客に襲われた大村益次郎の治療などにあたつた。

一方、明治政府はオランダ医学にかつてドイツ医学の採用を決定し、大学東校(現東京大学医学部)にドイツ人医師を招聘していたが、普仏戦争の影響で来日が遅れたため、任期を終えて帰国しようとしていたボードインに講義を依頼し、ボードインは二カ月間、大学東校で講義を行った。この間、医学校と病院の予定地

とされていた上野の森を視察したボードインは、豊かな自然が失われることを危惧して公園とするよつに進言し、現在の公園が誕生することになった。上野公園にはその業績を顕彰するボードインの銅像が建てられている。

明治三年(一八七〇)にオランダに帰国したボードインは、一八八四年オランダ陸軍を退役し、翌年ハーグで没した。六四歳であった。

### 古写真データ

目録番号: 6250  
撮影者: A. F. ボードイン  
アルバム名: ボードインコレクション(2)  
年代: 1865  
色彩: モノクロ  
形状: 128x167  
整理番号: 122 46 0  
キーワード: ボードインコレクション



オランダ陸軍3等医学将校の軍服に身を包んだボードイン博士。カピタンハウスと呼ばれた出島のオランダ商館長の邸宅と思われる部屋で撮影されたようだ。

Anthonius Franciscus Bauduin( 1820 ~ 1885 )